

興行も土地の興行師に買ってもらえなくならずから、まじめに勤めました。恩師ゆずりの河内山はどこでもケラレませんでした。やはり木村の節はいいんです。威勢がよくて」

28歳で専門家になって60年ちかく現役生活を送っている若友師を支えてきたのは愛妻で合三味線もつとめた徳子さんだった(昭和62年没、71歳)。「私の三味線を上手くも下手でも40年、よくやってくれました。貞女でした。どこに行くのも一緒にオシドリ夫

技藝者之證

611 警視廳

第五〇〇一號昭和十七年十一月二十日交付

藝名 木村 蒼友



氏名 大 木村 政 賢
 明治 大正四年四月十七日生
 昭和 四十四年四月十七日生

これは珍しい昭和19年発行の技芸者之証。「この当時は2か月で一席はおぼえました。好きこそものの上手なれだったんですね」

婦と呼ばれました」

この取材には若友師の一人娘の政子さん(63)が立ち会ったが、

「父のナマリが直らないのを母は無念に思っていました。ナマリが無くなったら二代目の友衛を継ぐ話もあったようです。母はナマリを矯正していたので、母は「私と逆だったらよかったのに」とくやしがつていました」

若友師はこの四月に自宅で転んで頭を強打して入院したが、回復が早く医者も驚く生命力だったようだ。

「普段もよく歩いて運動してましたから治りも早かったと思います。それに



徳子(とくこ)夫人。「そんなに浪曲に興味があったわけでもなかったのに、私のために三味線を覚えてよくやってくれました。稽古のとき、私は「そこ、またナマツテいるよ」とよく言われました」

腹から声を出して身体を鍛えていた浪曲の余徳なんでしょうね」

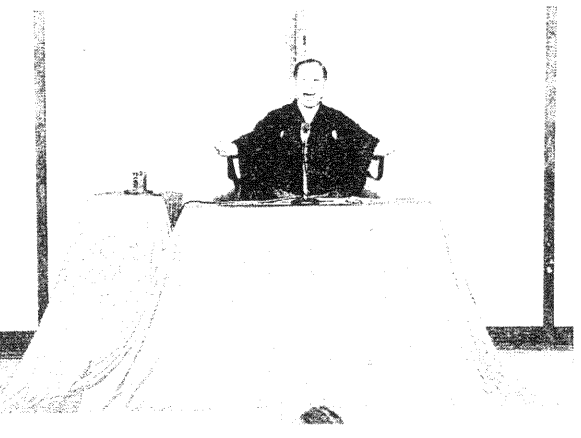
こちらの質問に懇切丁寧に答える若友師は誠実のかたまりだ。誠実の国から誠実を広めにきた聖人のようだ。

「私は借金はない。人とケンカしたことはありません。間違いはおかしたことは、ありません」

来年は米寿を迎える師だが

「まだまだ浪曲はやれます。声は出ます。浪曲が生きがいです」

同い年の末広友成との記念の浪曲大会が待ち望まれるところだ。



「浪曲をやってきて悔いは全くありません。このまよいって本望です」。一芸を磨いてきた職人だ。芸一筋の生き方は貴い。

浪曲... これほどすばらしい芸は他にはないと思います。

41 / 52

浪曲家の皆さん... 頑張ってください。
 多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉